



ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第2話 「オーディション」

【登場人物】

監督

男性

女性



監督 「はい。それでは今回の『ドラマ』君が私をダメにするのオーディションをはじめます。監督の中村です。ではそちらの男性から簡単に自己紹介をお願いします。」

男性 「はい。浅川まこと(あかかわまこと)と申します。新潟県出身、24歳です。よろしくお願いします。」

監督 「お願いします。次はそちらの女性の方」

女性 「はい。浜崎まこと(はまざきまこと)です。兵庫県出身、24歳です。よろしくお願いします。」

監督 「よろしくお願いします。えーでは早速始めて行きたいんですが…ん、なんでこんなところにカメラが置いてあるんだ？ちょっと、そこにあるカメラ移動させてくれな。」

男性 「あ、これ僕のカメラです」

監督 「あ、そうなの。」

男性 「はい。一応密着をしておらまっして…」

監督 「え、え、の番組でしょ。」

男性 「自分のYouTuberじゃ」

監督 「えっ？」

男性 「僕、俳優兼YouTuberじゃ」やっぱ甘んじてもらってまじっ」

監督 「じゃあ、その女性の横にあるカメラも君の？」

女性 「あ、いえ。「これは私のカメラじゃ」」

監督 「あ、そうなのっ？」

女性 「私も同じくYouTuber兼女優じゃ」

監督 「まあ最近俳優もYouTuberをしているから……時代が変わってきたのな」

女性 「そうですね」

監督 「ちなみにチャンネル名聞いてもいいっ？」

女性 「もなかチャンネルです」

監督 「今見てもいい？」

女性 「はい。あ、ついでにチャンネル登録もお願いします」

SE 監督がスマホをタップする

監督 「えーつと…あ、あった。もなかチャンネル。チャンネル登録者数300人」

女性 「いやあ、まだ始めたばかりで」

監督 「こういう密着って結構有名なYouTuberがやると思ってたんだけどな。
ん？ここに映ってる男性はもしかして君かい？」

男性 「おそろくそうだと思います」

監督 「2人は前から顔見知りなんだ」

男性 「いや、顔見知りというか」

女性 「付き合ってます」

監督 「え？」

男性 「いわゆるカップルYouTuberってやつです」

監督 「なるほど。あーほんとだ」

監督 「トッキリ企画！彼女の目の前で〇〇したら…とかあるね」

男性 「そうなんです。その企画がバズって再生回数500回いったんですよ」

監督 「バズったかなあ？」

男性 「あれ本当に面白かったよな」

女性 「私、撮られてるって知らなくて思わず口が悪くなっちゃって」

男性 「でもあそこからもう一段階仲良くなったよな」

女性 「そっだね。懐かしいなあ」

監督 「その話、今いる？」

監督 「え、なんでこのオーディション受けたの？」

男性 「いや、カップルYouTuberと一緒にドラマオーディションでそれぞれ主演なんて、バズるに決まってるじゃないですかー！」

監督 「まだ主演とは言っていないんだけどね」

女性 「本当ですよ。マジウケるー！」

監督 「素が出てきたな」

監督 「えーそれでは、お二人の演技力を見てみたいので先ほどお渡しした台本
がありますよね？そちらをお二人に演じていただきます。設定は別れを
告げる男女のシーンです」

女性 「え、別れたくないですー！」

監督 「演技だけで大丈夫です」

男性 「まい、やるしかないんだ。演技だとしても俺だって辛い。」「」は腹を括って
頑張ろうー！」

女性 「そっね。YouTubeのために頑張ろうー！」

監督 「俳優人生のために頑張ってほしいんだけどな。では始めます。よーい。ア
クシヨーン」

男性 「まい。もう、終わりにしよう」

女性 「え、なんで？」

男性 「冷蔵庫にあった俺が買ってきたプリン勝手に食べたから」

女性 「WWW」

監督 「カット。勝手にボケないでください」

男性 「すみません。アドリブ入れた方がいいと思いついて」

女性 「何それW」

監督 「台本通りをお願いします。改めまして、よーい、アクションー」

男性 「まい、もう終わりにしよう」

女性 「え、なんぞっ」

男性 「もうすれ違うだけの時間しかないから。「このまま一緒にいてもお互いのために良くない。だから別れよう」

女性 「そんなのやだよ」

監督 「はい。カット。うん。うまいね」

女性 「すみません。まじとくんとは別れる」ことを想像したら自然と涙が出てしまっ
て…」

監督 「ちよつと複雑だな」

監督 「えーではちよつとした質問に入ります。彼氏さんに聞きますけど、彼氏さんってなんだよ」

男性 「はい」

監督 「浅川さん。これはオーディションなので他の女性も受けてくれています。もし浅川だけが受かって、浜崎さんが落ちて他の女性が受かったとしてやりますか？」

男性 「はい。受けます」

女性 「ちよつと待って。それってどうして？」

監督 「落ち着いてください。」

男性 「監督。「」のドミナマッてキスシーンありますよね。」

監督 「ま、まあ」

男性 「お前、女優とキスできるなんて一生に一回あるかないかだぞ。そんなチャンス逃すやつなんているか？いいないだろう？」

監督 「普通は一回もないです」

女性 「それ彼女の前でいつのひびくなく？」

男性 「監督！ぜひこの役を僕にやらせてください！」

女性 「絶対にこの役をやらせないでください！」

監督 「とんでもないことになった」

女性 「もういいです。私」のオーディションやめます」

監督 「ええ…」

男性 「ちょっと待ってよ！」

女性 「離して！」

男性 「分かった！最後に渡したいものがある！ちょっと待ってて今から取ってくるから！」

監督 「なに？」

女性 「本当最低ですよね。すいません。お見苦しいところ見せて」

監督 「あ、はい。」

男性 「ジャジャーン！ドッキリ大成功！」

監督 「えっ？」

女性 「どっ！どっ！どっ！」

男性 「今回の企画はですね、『彼女に女優とキスをしたいと言いだしたらどっ！どっ！どっ！』でしたー！」

女性 「ちよつともうー！また引つかかっちゃったー！」

男性 「ごめんごめんー！」

監督 「なにこれ」

男性 「監督！このオーディション合格ですか！？」

監督 「んー。演技はうまいからちよつと考える」